

冬のアーケード装飾

# 『四条 洛中洛外雲海図』



【二十四節氣をテーマとした発光色の変化】



四条通にて毎年恒例になっている冬のアーケード装飾。京都の人々の暮らしや風俗が色濃く描かれた「洛中洛外図」からインスパイアされた、様々な色に発光する雲形の導光板「光る雲パネル」を四条通のアーケード下約1km（烏丸通～四条大橋西詰の南北両側）に連続的に吊り下げ、四条通を行き交うお客様も巻き込んだ形で「立体洛中洛外図」を疑似的に演出します。掲出期間を前期と後期の2期に分け、「光る雲パネル」の色や点灯パターンを変化させ、季節の移ろいや京都ならではの華やぎを表現します。今年は洛中洛外図に描かれる町人や芸人など、そこに生活する人々の姿をパネルで追加表現。四条通でしか見られない格式あるアートをお楽しみ下さい。



【洛中洛外図】

京都の市街（洛中）と郊外（洛外）の景観や風俗を高い視点から見下ろして描いた屏風絵。16世紀初頭から江戸時代にかけて数多く制作された。天から鳥瞰された図の裏面には、御所（皇居）をはじめ貴族や武家の御殿、名高い寺社、観光名所を取りあげて、そこに暮らす当時の京都の人々や風俗が色濃く描かれており、これらは美術的な価値だけでなく建築史などさまざまな分野でも高い資料的価値をもつ。

【アートプロデュース】 高橋琢太（たかはし たくま）

1970年京都生まれ。1995年京都府立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。光や映像によるパブリックプロジェクション、インスタレーション、パフォーマンス公演など幅広く国内外で活動を行う。東京駅100周年記念サイトアップ、京都・二条城、十和田市現代美術館など、建築物のデザインプロジェクトや、「夢のたのプロジェクト」、「Oやりの笑」、「Oかりの花魁」、「Glow with City Project」など大規模な参加型アートプロジェクトも数多く手がけている。2021年春にリニューアルオープンした「京都市京セラ美術館」の外観照明の演出にも携わる。

…雲パネル吊り位置



令和5年10月29日(日)～令和6年1月31日(水)

◎前期 令和5年10月29日(日)～同年12月25日(月)

◎後期 令和5年12月26日(火)～令和6年1月31日(水)